

第4回協議会での意見について



第4回協議会での委員の方々からの主な意見

新拠点について都市計画審議会でのどのような経緯で決定したのか

P.3～

山陽地域だけでなく、市域全体を考えたときのイメージはどうなるか

P.9～

市街化区域にどこを加えて、どこを除外するのか

誘導区域を定める際に検討していく

コネクティッドシティが生み出す赤磐ならではの魅力とは

必要な都市機能施設を定めていく際に検討していく

子育て支援の充実を施策として定住を進める必要がある
また、若者定住の手段として空き家を活用できるように検討が必要

誘導施策の中で検討していく



都市計画審議会での経緯について（新拠点）



新拠点（河本・岩田地区）については、赤磐市都市計画審議会（H31.3.15）での説明を経て都市計画マスタープランに位置づけている。

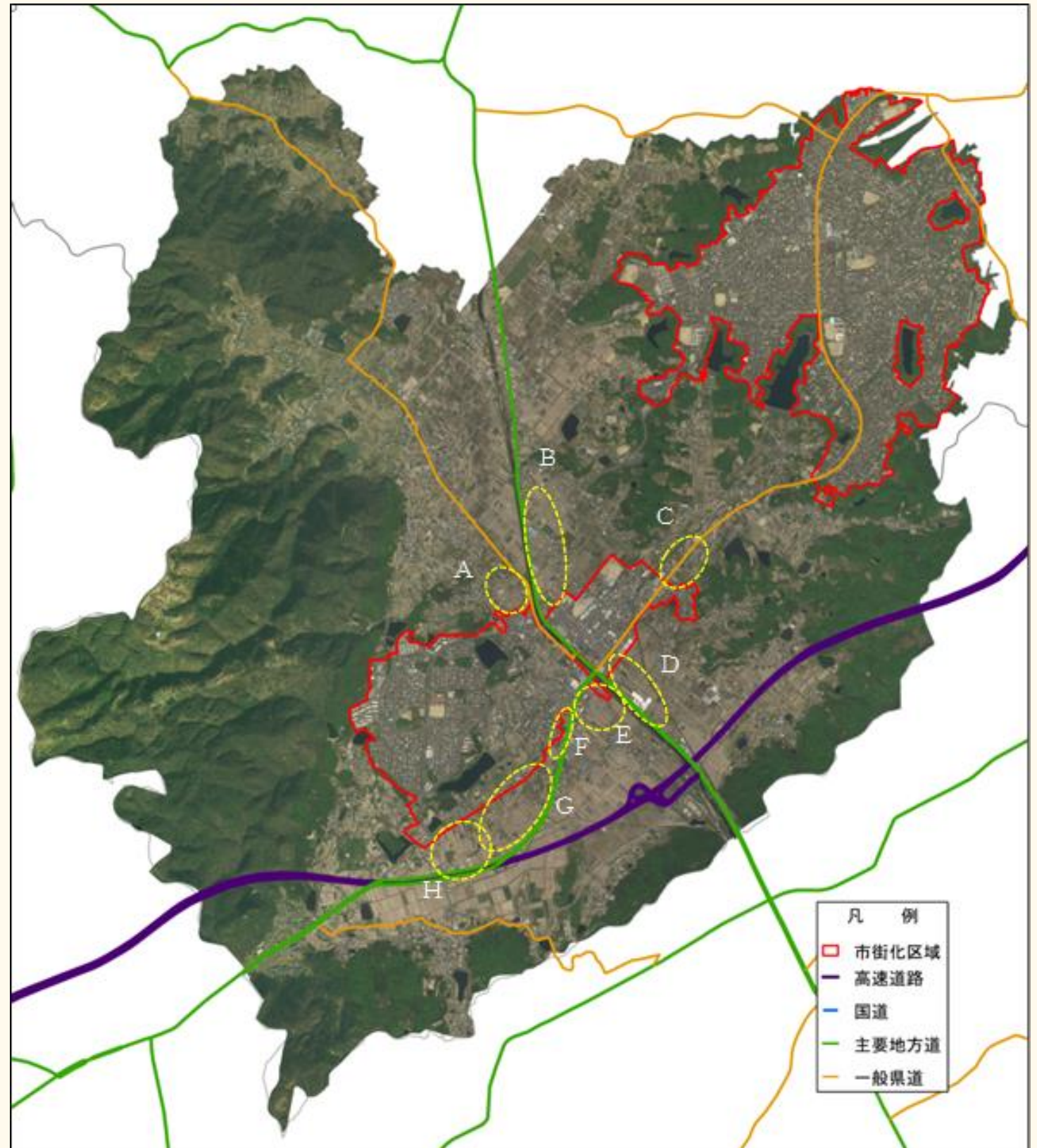
☆位置の選定

将来の市街化区域への編入を見据え、現在の市街化区域に隣接している地区で、かつ、幹線道路沿いという基本的な条件を満たす複数の候補地区の中から、岡山市、山陽ICとの位置関係や、建物の移転や補償などの社会的・経済的な負担、過去の農業投資の状況などを加味し、比較検討を行い決定している。

☆委員からの主な意見

- 水害に対しての対応は
- 他計画との整合は
- ⇒周辺地区は大雨時に浸水する地域であるため、実際の計画を策定していく中で、浸水対策について検討していくと回答
- ⇒第2次赤磐市総合計画（R2.3）
第2期赤磐市まち・ひと・しごと創生総合戦略（R2.3）へ位置づけ

【平成31年3月15日 赤磐市都市計画審議会での説明資料】





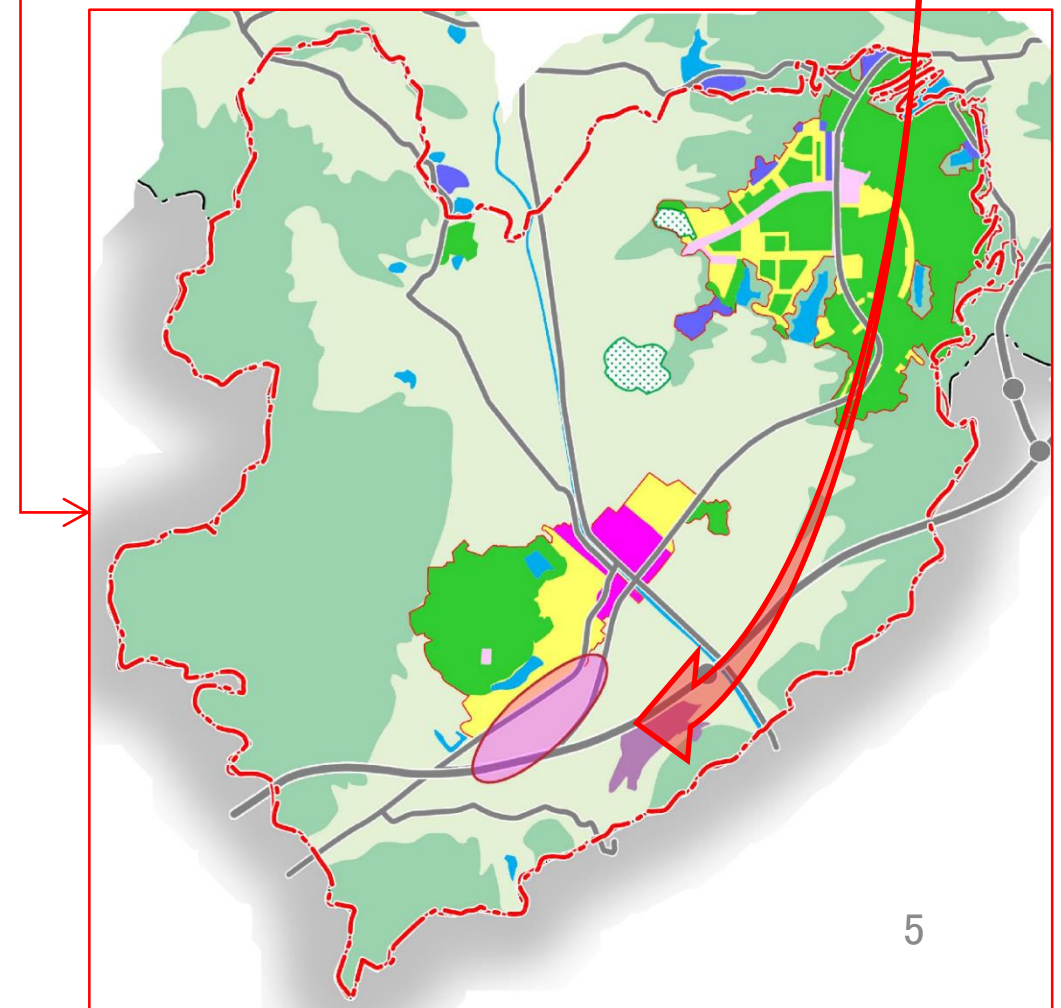
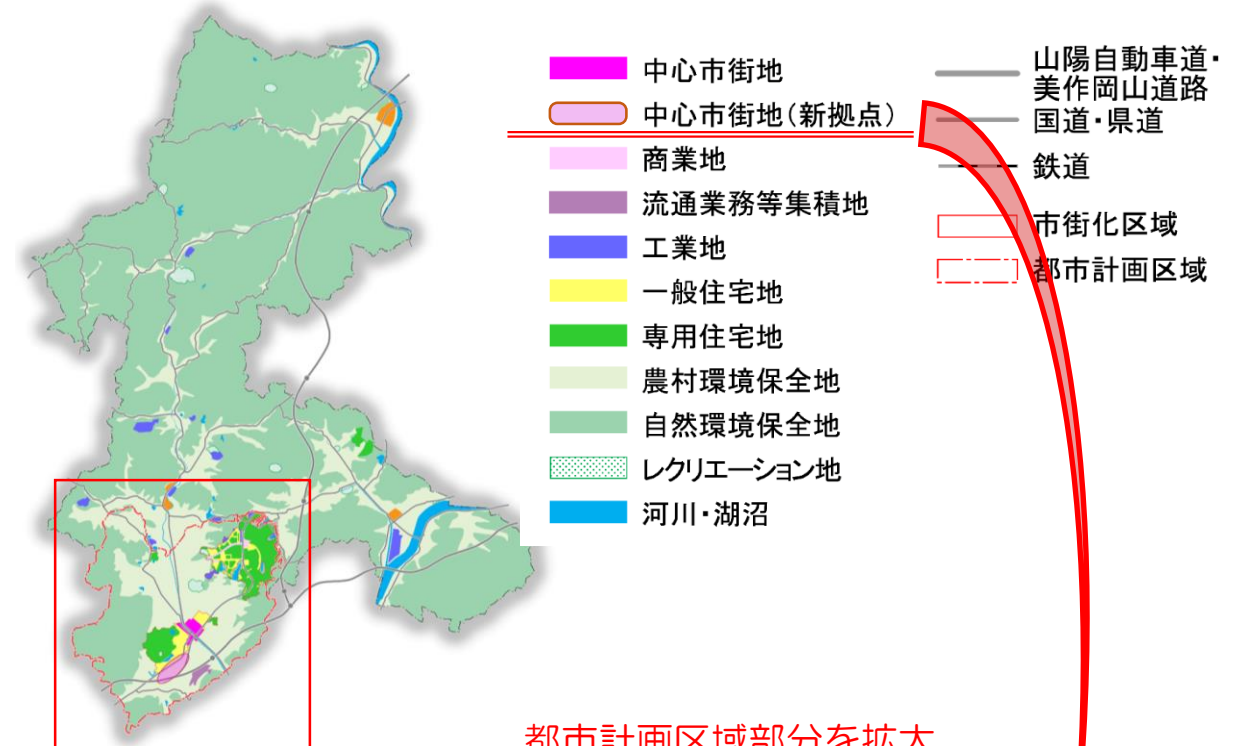
○都市づくりの基本目標

- ・市街化区域では、用途の混在を防止するなど、居住環境に配慮した計画的な土地利用を推進します。また、市街化調整区域においては、原則として市街地の更なる拡大を抑制しつつ、持続可能な都市づくりを推進する上で真に必要となる区域については、市街化区域に編入するなど、集約型都市構造の実現に向けた計画的な土地利用を推進します。
- ・交通結節点の整備等により、バスや鉄道など公共交通サービスの利便性の向上を図ります。

○将来都市像

- ・岡山市や山陽ICに近い河本・岩田地区周辺に、交通結節点を含む新たな都市拠点を整備し、都市機能や居住の集積を図るとともに、他の拠点と利便性の高い公共交通で結ぶことにより、公共交通を軸に複数の拠点が連携する都市構造の形成を図ります。

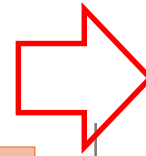
■土地利用方針図





・赤磐市の現状

（平成28年3月）



- ・都市計画区域には市の人口の約56%が居住しているが、その人口に比して中心市街地の規模・機能は小さい。
- ・市街化区域には、道路整備等が遅れていることによる未利用地が残されているほか、一部には商業・工業・住宅用地が混在している。

・市民意識（重要度が高く、満足度が低い）

- ①道路交通ネットワーク（公共交通の充実、道路交通網の充実）
- ②交通安全・防犯体制
- ③高齢者福祉の充実
- ④健全財政の推進（健全な財政運営・行財政改革）
- ⑤雇用・勤労者対策の充実

・まちづくりの方針

- ・多極ネットワーク型の拠点都市構造を長期的に形成していくことを目指す。
- ・交通インフラを活かした適切な土地利用誘導（区域区分の見直し、用途の指定等）

・重点施策

【魅力的な中心市街地の形成】

土地区画整理事業等により市街化区域内の未利用地の宅地化を進めるとともに、都市計画区域内における区域区分の土地利用規制を見直し、市街地に企業や生活利便施設等の立地を誘導することで、利便性と賑わいのある中心市街地の形成を図ります。

・赤磐市の現状

（令和2年3月一部改訂）

- ・市街化区域には、市の人口の約56%が居住しているが、その人口に比して中心市街地の規模・機能は小さい。
- ・市街化区域の一部には、商業・工業・住宅用地が混在している。
- ・必要な都市機能を明確にしながら、計画的な土地利用を進めていく必要がある。

・市民意識（重要度が高く、満足度が低い）

- ①道路交通ネットワーク（公共交通の充実、道路交通網の充実）
- ②雇用・勤労者対策の充実
- ③高齢者福祉の充実
- ④住宅・市街地の整備
- ⑤仕事と子育ての充実

・まちづくりの方針

- ・多極ネットワーク型の拠点都市構造を長期的に形成していくことを目指す。
- ・交通インフラを活かした適切な土地利用誘導（区域区分の見直し、用途の指定等）

・重点施策

【魅力的な中心市街地の形成】

岡山市や山陽ICに近い河本・岩田地区周辺に、交通結節点を含む新たな都市拠点を整備し、賑わいと活力のある魅力的な中心市街地の形成を図ります。



【目標】

子育てするなら あかいわ市

【基本目標】

Ⅰ.安心して子育てができ、次代を担うひとが育つまちを創る

Ⅱ.経済・産業に活力があり、ひとが集まるまちを創る

Ⅲ.多彩な人材の活躍により、地域が活性化しているまちを創る

【プログラム】

子育て・教育

- ・安心して家庭を築ける環境創出
- ・安心して出産・子育てができる環境創出
- ・子どもが健やかに育つ教育環境創出

働く・仕事

- ・企業誘致による安定的で良質な雇用創出
- ・商工業・観光振興による賑わいと活力創出
- ・強い農業の確立

暮らし・人口

- ・移住・定住が進むまち創出
- ・支えあいを中心とした協働によるまちづくり推進
- ・高齢者が生きがいを持ち元気に暮らせる地域創出

【魅力的な中心市街地の形成】

岡山市や山陽ICに近い河本・岩田地区周辺に、交通結節点を含む新たな都市拠点を整備し、賑わいと活力のある魅力的な中心市街地の形成を図る。

地域の治水安全度については 下水道事業による内水対策

都市施設である下水道（雨水）計画を策定し、河川整備と並行して内水排水の対策を行う。

開発行為に対する治水対策については開発許可制度による流出抑制

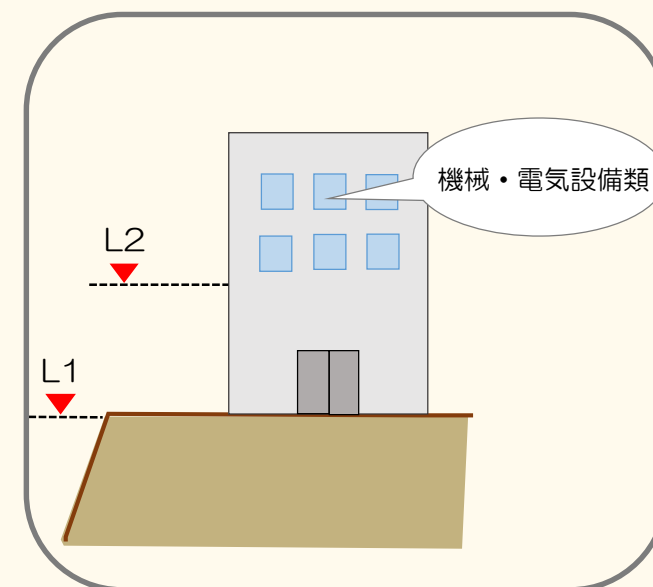
各開発行為を行うことによる流出量の増加に対する対策については、各開発者により雨水調整池等を整備することにより治水安全度を維持、増進させる。

計画地内について

新拠点計画地については、洪水の浸水想定区域であり、県道岡山吉井線上の深いところでL1で約2m程度、L2で約5m程度浸水するとされている。

市の防災の考え方として、防災上重要な施設については、L1では浸水しないこと、L2では浸水しても、機能は逸しないことを基本とし、特に新設施設はこの考え方によることとしている。このことから、新拠点についても、市の防災関連施設については、L1で浸水しない、かつ、L2で機械、電気設備等が浸水しない高さで整備を行う予定。

また、新拠点に整備予定の道の駅について整備後は2次物資拠点※などの受援の拠点として活用することを想定している。地震時やたとえL2規模の洪水時であっても、浸水継続時間は24h以内であることから、想定している2次物資拠点などの受援拠点としての機能は十分に満足できるものと考えている。



L1:計画最大（年超過確率1/100）

L2:想定最大規模（年超過確率1/1000を超過する規模）

※2次物資拠点：県の運営する広域物資拠点から物資を受け入れ、各避難所へ送付する拠点のこと



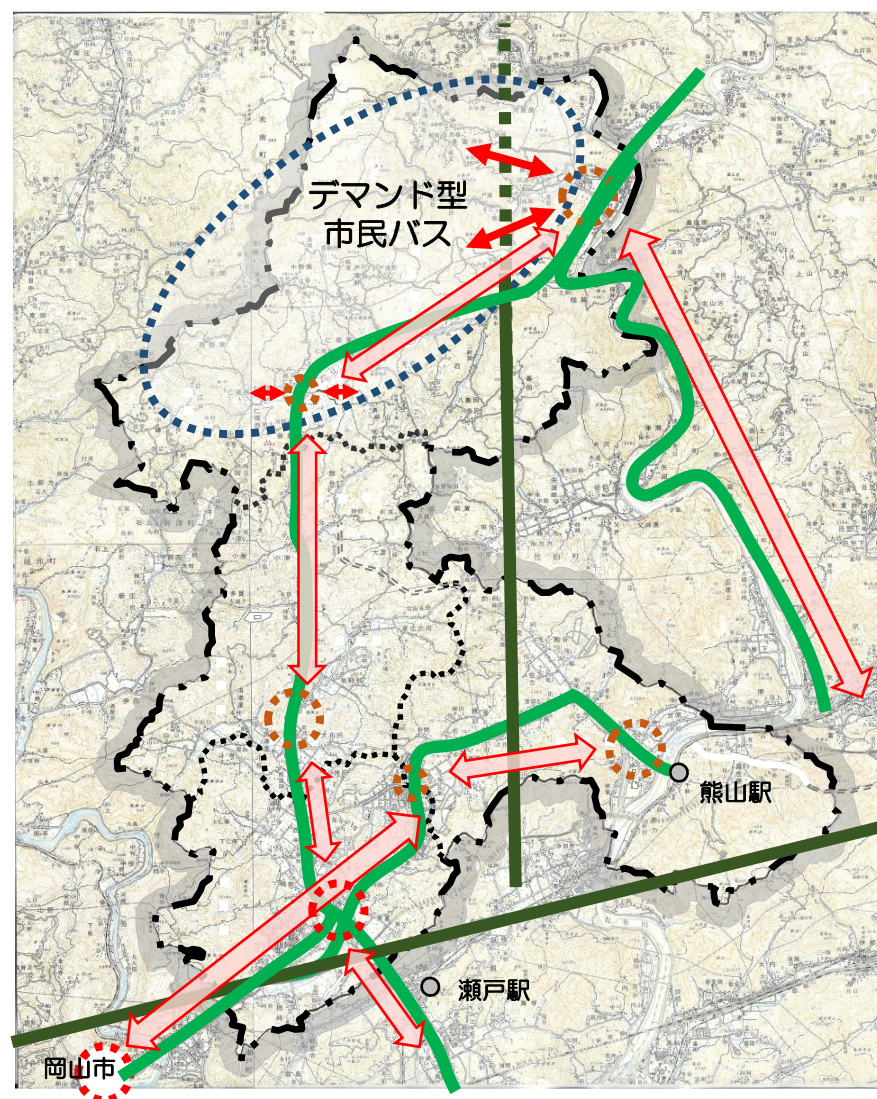
赤磐市の地域拠点について



地域拠点（赤坂、吉井、熊山）

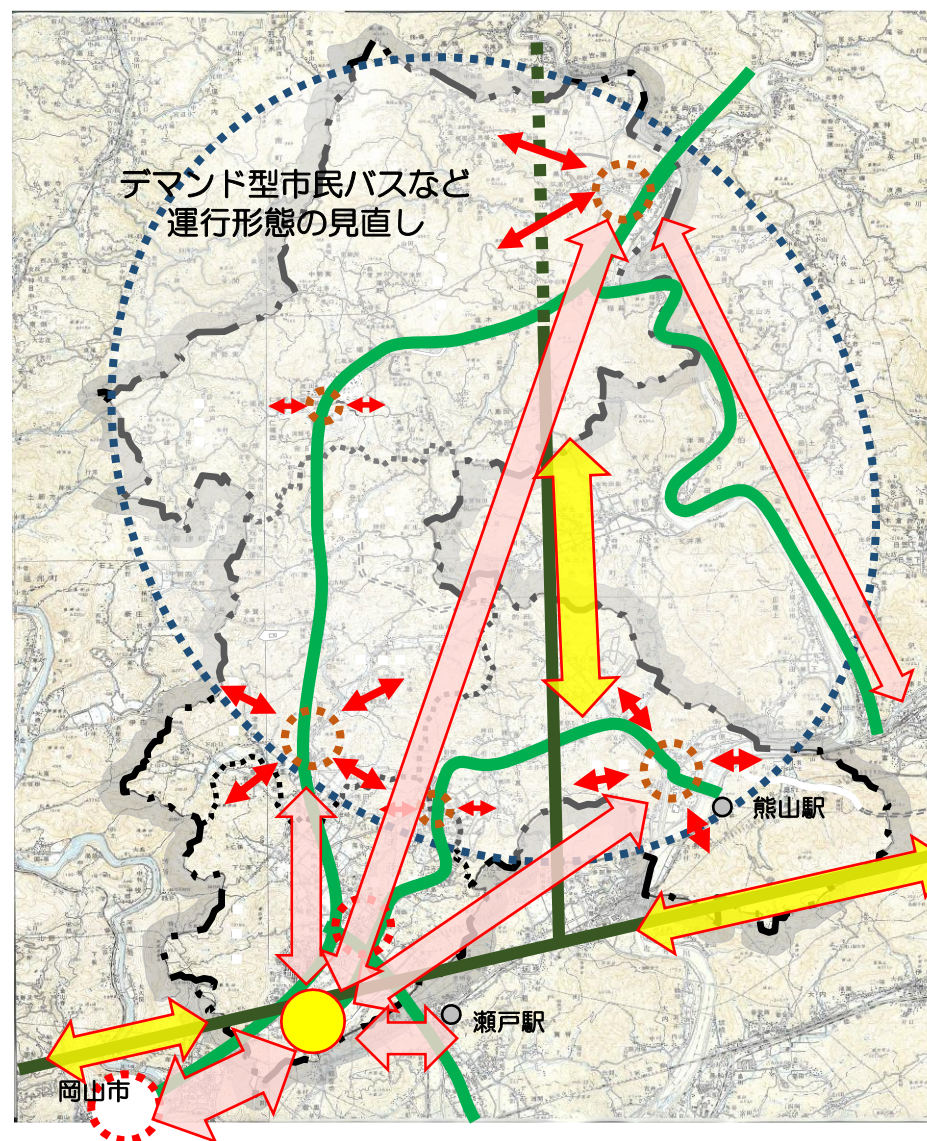
- ・旧町役場周辺を地域の中心とした、日常生活利便施設の誘導を図ります。
- ・農業生産環境等に配慮し、利便性や居住環境の向上を図ります。
- ・地域交通は運行形態の見直しにより集落と地域拠点とのアクセスの向上を図ります。
- ・地域拠点には、交通の拠点を整備し、交通ネットワーク網により市街地との接続利便性向上を図ります。

現在



- ・線的に最寄りの地域拠点間を結ぶ市民バスや広域路線バス路線
- ・都市間を結ぶ民間バス路線と地域拠点間を結ぶ市民バス路線等の連携が十分ではない

将来



- ・路線バスの集約により運行効率化を図り都市間ネットワーク（瀬戸駅経由を含む）の増強による利便性向上
- ・デマンド型市民バス等により、各地域拠点へ面的に利用者を集め、新拠点と地域拠点を結ぶことによる効率的な輸送

【対応】

- ・新拠点に交通結節点機能
- ・地域内ネットワークの運行形態見直しにより、地域拠点へのアクセス向上
- ・新拠点と各地域拠点及び国土・広域連携軸などの広域交通網との連携

【凡例】

- : 主要道路
- : 高規格道路
- - - : デマンド型市民バス
- : 都市拠点
- : 地域拠点（支所等）
- : 新拠点
- ⇄ : 地域連携軸
- ⇄ : 国土広域連携軸
- ⇄ : 各地域拠点へのラストワンマイル網